



2018年10月期 第1四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Mar.16th.2018



CONTENTS

1 2018年10月期 1Q決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因

2 2018年10月期 業績見通し

- 見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 見通し数値まとめ
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

2018年10月期 1Q決算の概況

販売が増加する中、生産性向上に努めたことなどから、前年同期比増収増益

光事業

- デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプの需要減少が続いたものの、レンズ交換式タイプではミラーレスタイプの需要が増加
- 売上高は、新製品やレンズ加工品の販売に努め、プロジェクター向けレンズ材などの販売も増加したことから、前年同期比増収
- 営業利益は、原料価格上昇により、原料調達の改善効果が縮小したものの、製品ミックスの改善や生産性向上により黒字転換

エレクトロニクス事業

- 露光装置市場は、半導体向け硝材等の需要が堅調に推移
- 売上高は、極低膨張ガラスセラミックスの特殊用途向けが減少したものの、半導体露光装置向け高均質ガラス、石英ガラスなどが増加し前年同期比増収。ナノセラム™は、スマートフォンのカバーガラス向け拡販活動継続中
- 営業利益は、高均質ガラスや光通信機器向けガラス素材の販売増加や、生産性の改善により前年同期比増益

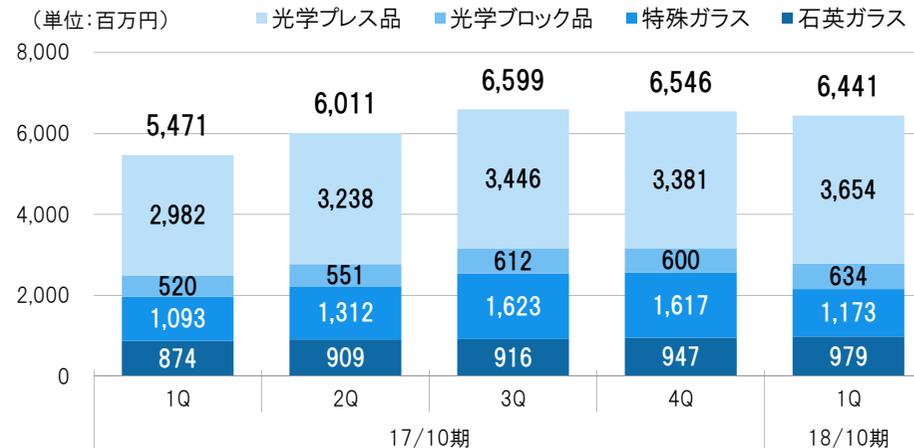
業績サマリー



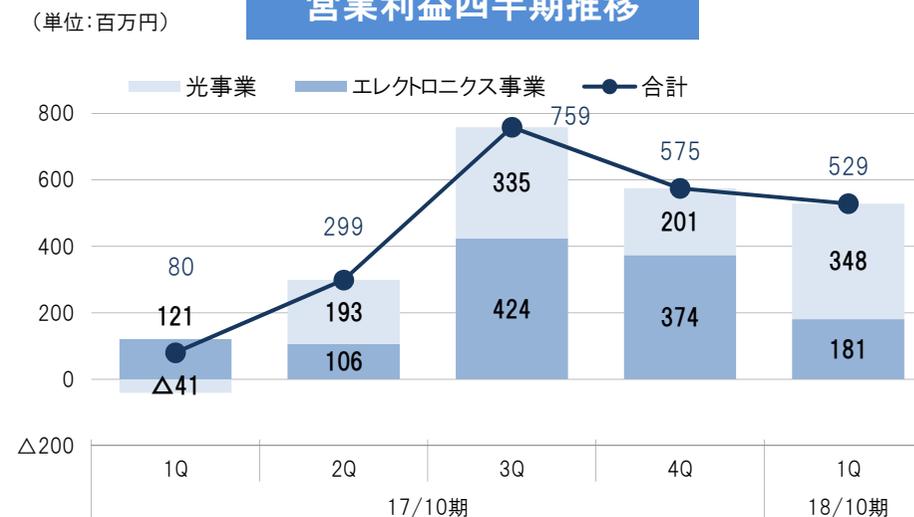
(単位:百万円、%)

	17/10期 1Q	18/10期 1Q	増減 増減率
売上高	5,471	6,441	970 17.7%
営業利益	80	529	449
[営業利益率]	1.5%	8.2%	560.4%
経常利益	250	540	289
[経常利益率]	4.6%	8.4%	115.5%
純利益 (親会社株主に帰属)	202	432	230
[純利益率]	3.7%	6.7%	113.5%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 113.03 120.39	期中平均 112.32 133.81	

売上高四半期推移

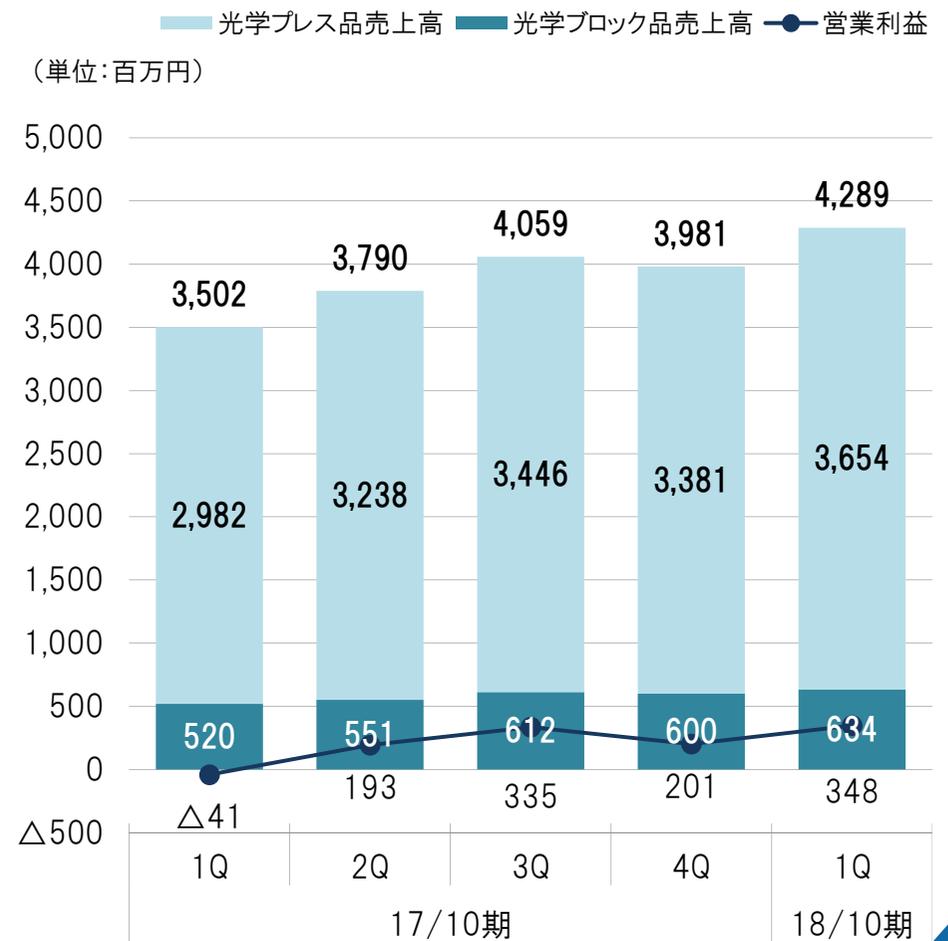
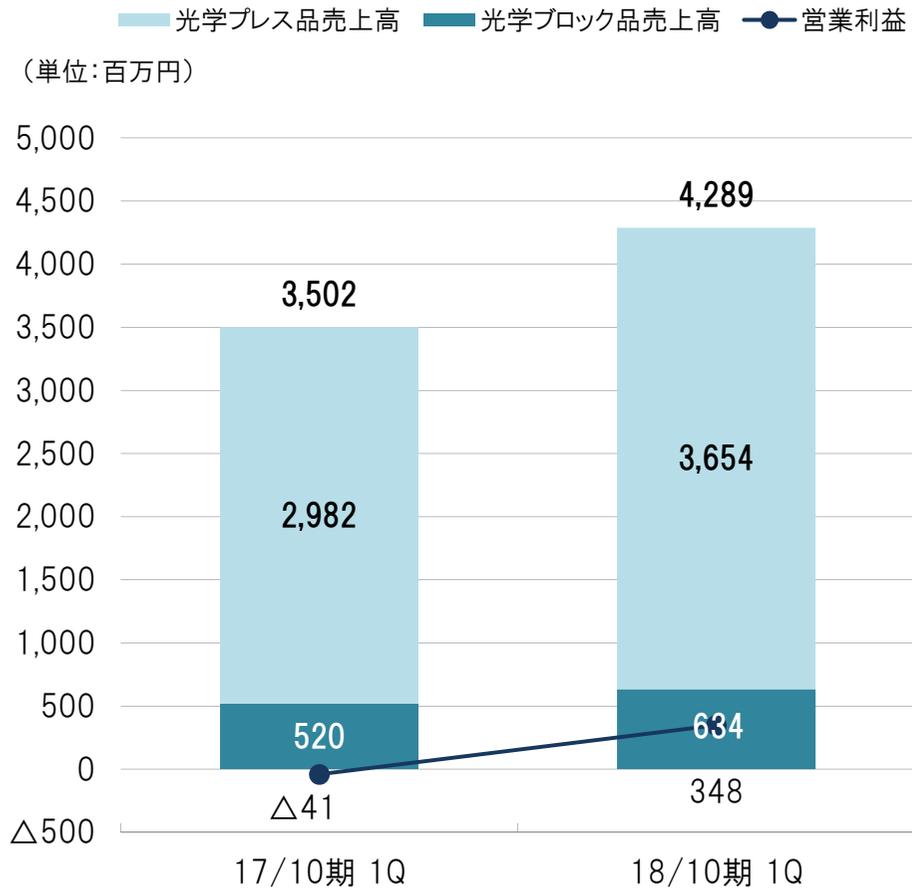


営業利益四半期推移



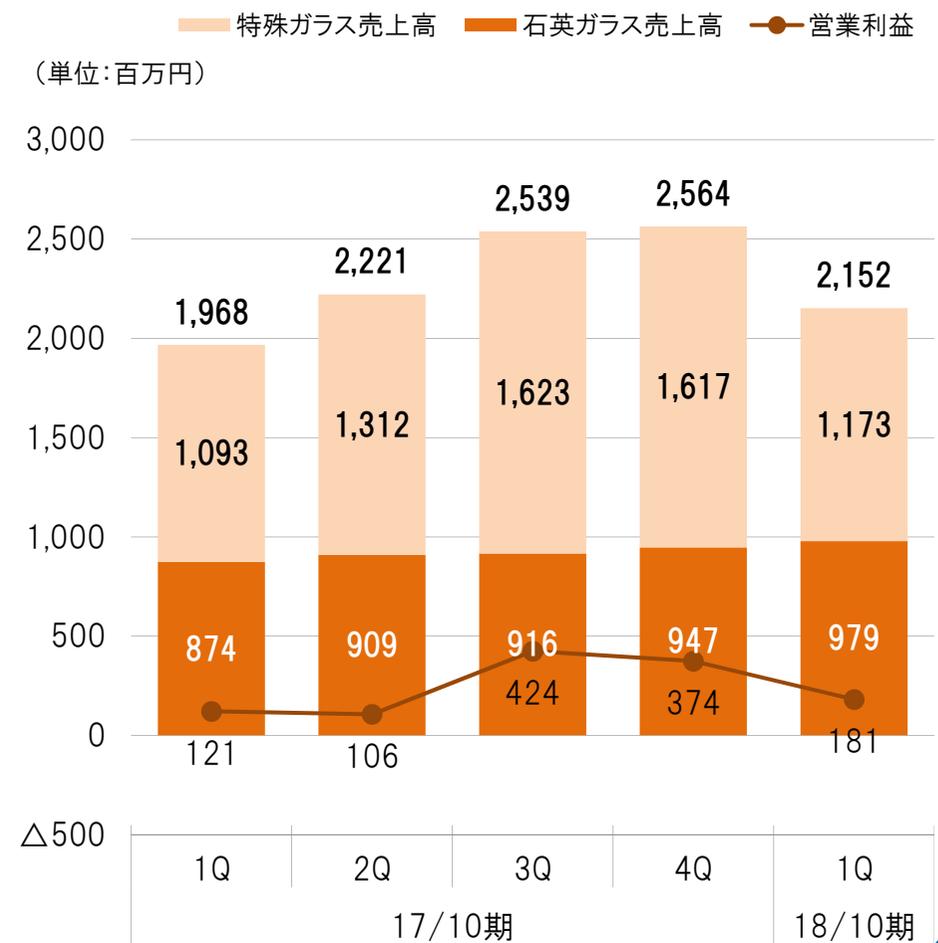
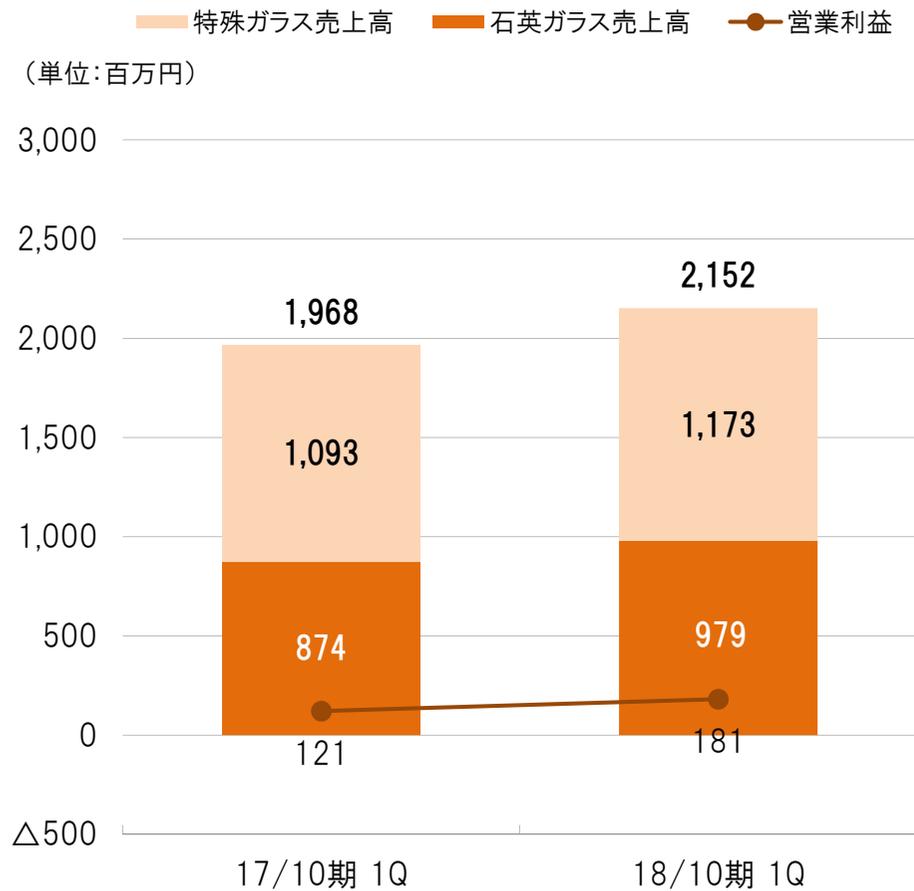
1Q対比

四半期推移



1Q対比

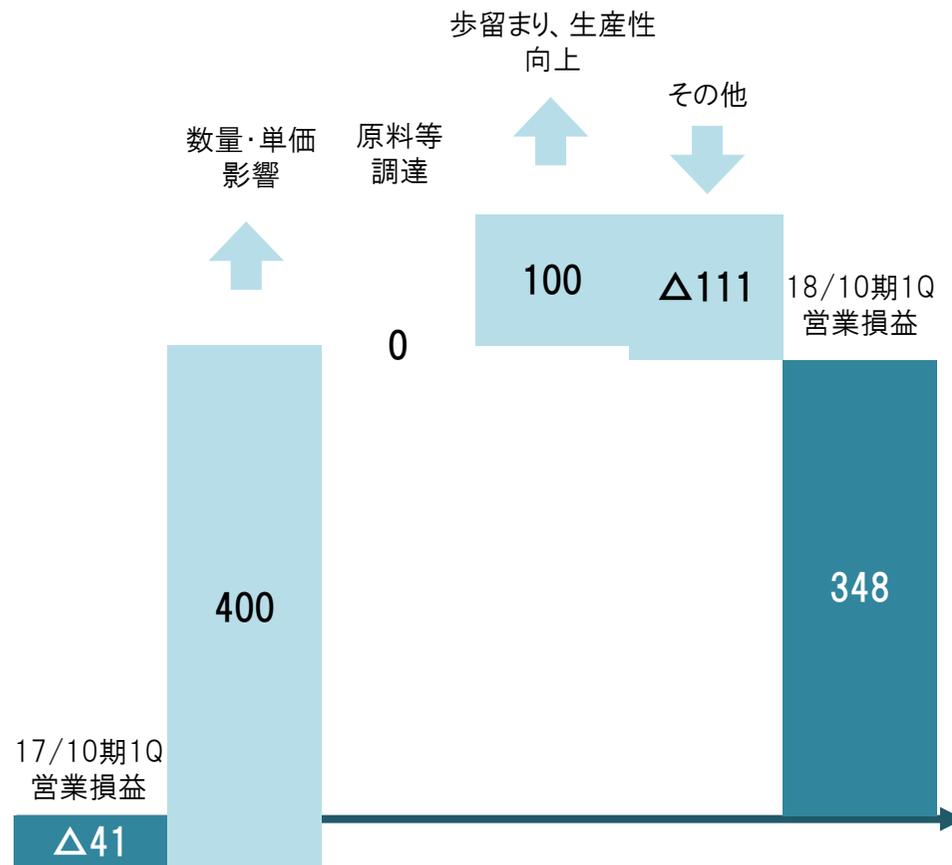
四半期推移



営業損益増減要因

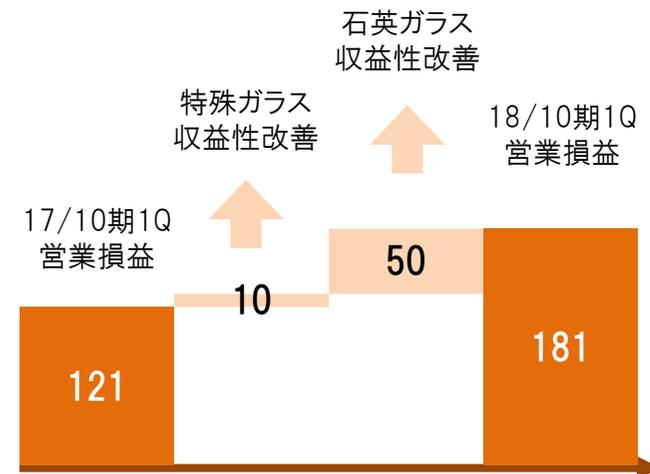
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



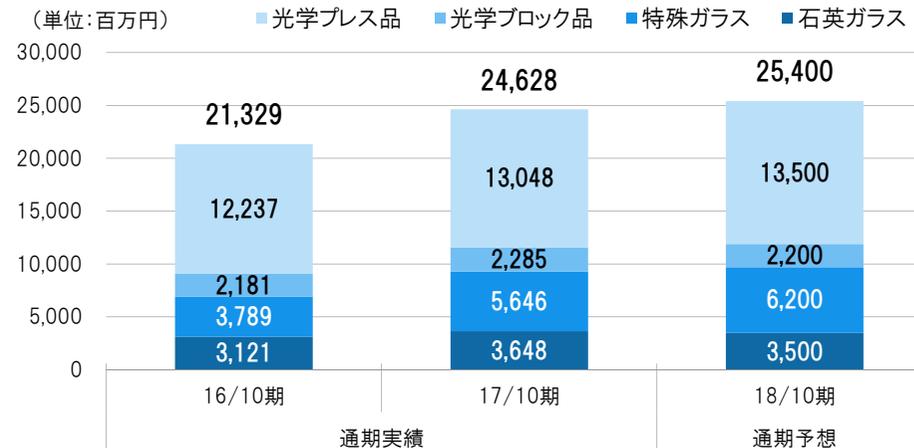
2018年10月期 業績見通し

見通しサマリー(修正なし)

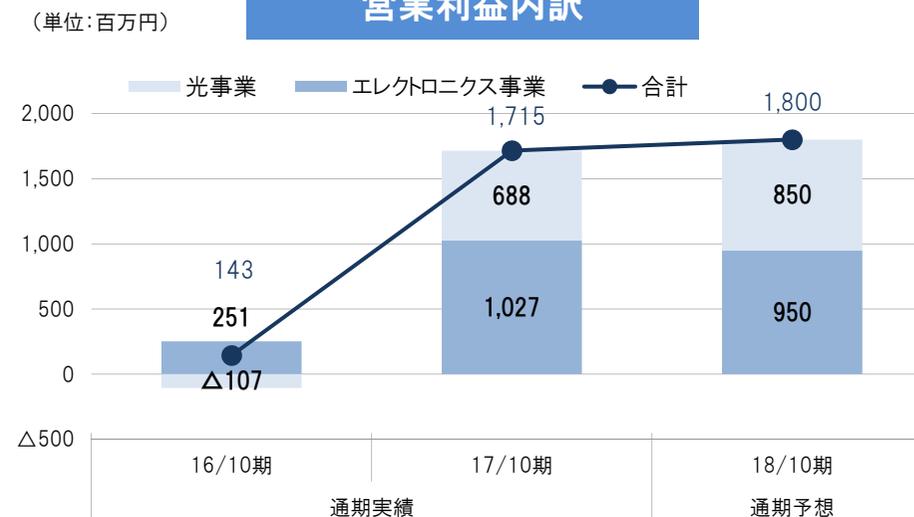
(単位:百万円、%)

	17/10期 通期実績	18/10期 通期予想	増減 増減率	18/10期 上期予想
売上高	24,628	25,400	771 3.1%	12,200
営業利益	1,715	1,800	84	800
[営業利益率]	7.0%	7.1%	4.9%	6.6%
経常利益	2,242	2,000	△242	950
[経常利益率]	9.1%	7.9%	△10.8%	7.8%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,513	1,600	86	750
[純利益率]	6.1%	6.3%	5.7%	6.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 112.04 124.46	期中平均 110.00 120.00		期中平均 110.00 120.00
年間配当金 円	20.00	20.00		

売上高内訳



営業利益内訳



ハイエンド光学機器向け新製品やレンズ加工品の拡販で、新たな光学ガラスの需要を取り込む

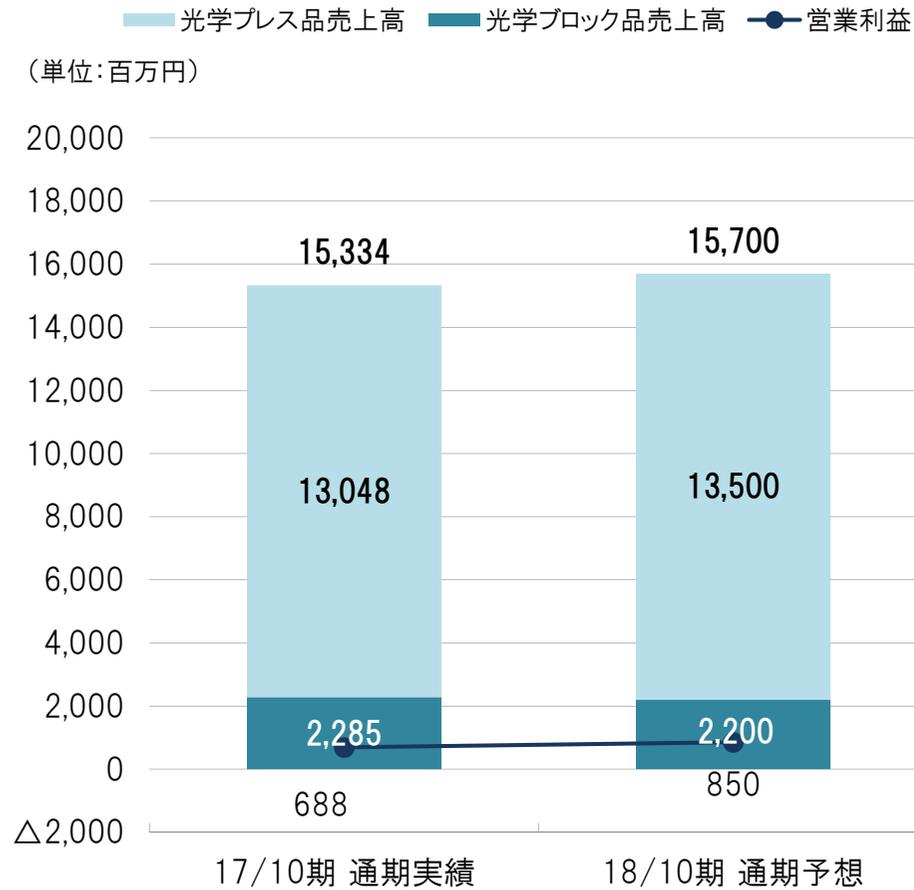
事業環境

- デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

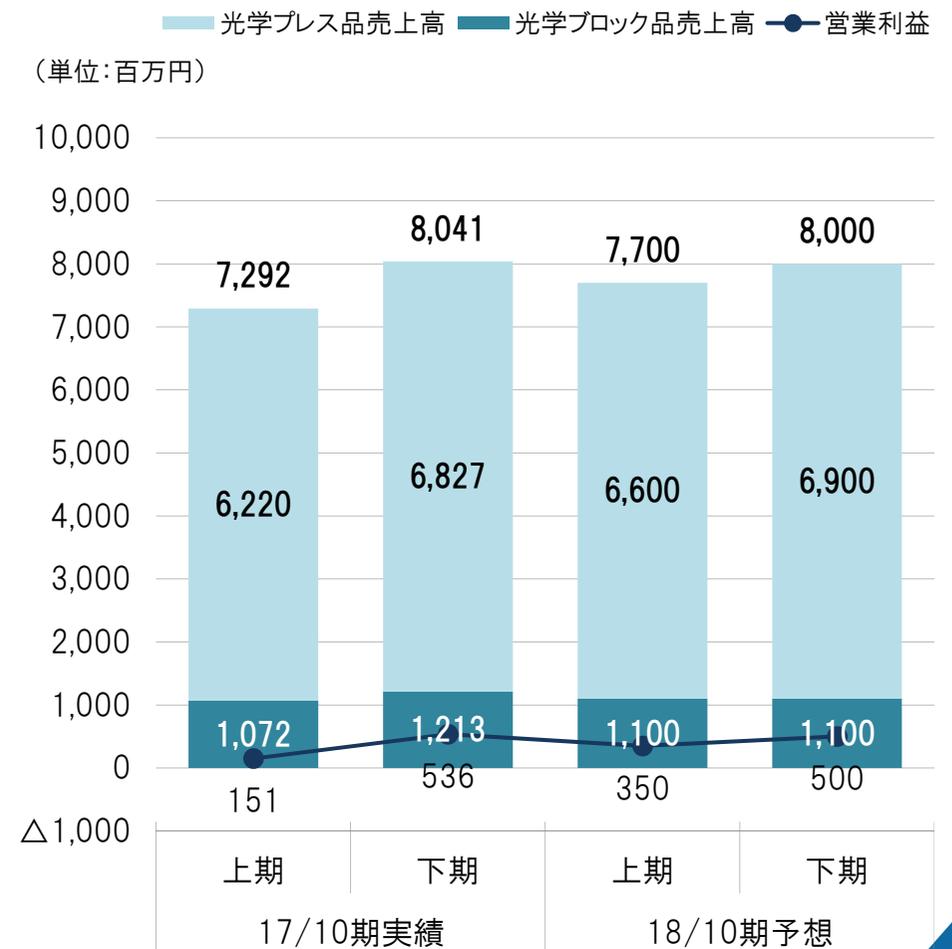
当社状況

- 高輝度・高精細プロジェクター、車載センシングカメラなどのハイエンド光学機器向けの新製品をタイムリーに開発、拡販を目指す
- ガラスモールドレンズの供給体制を構築し、レンズ加工品の販売比率を高めることで、光学ガラスの拡販と、利益率の向上を目指す

通期対比



半期推移



半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器向けの拡販に努めつつ、新製品の立ち上げに注力

事業環境

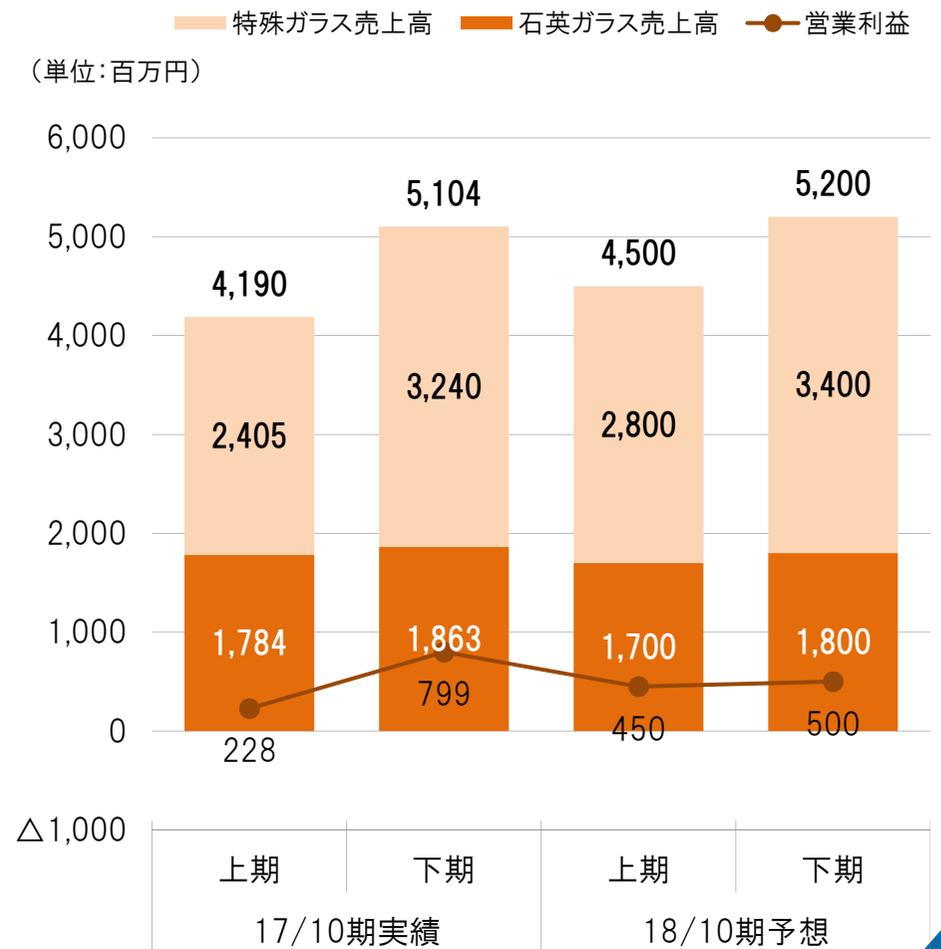
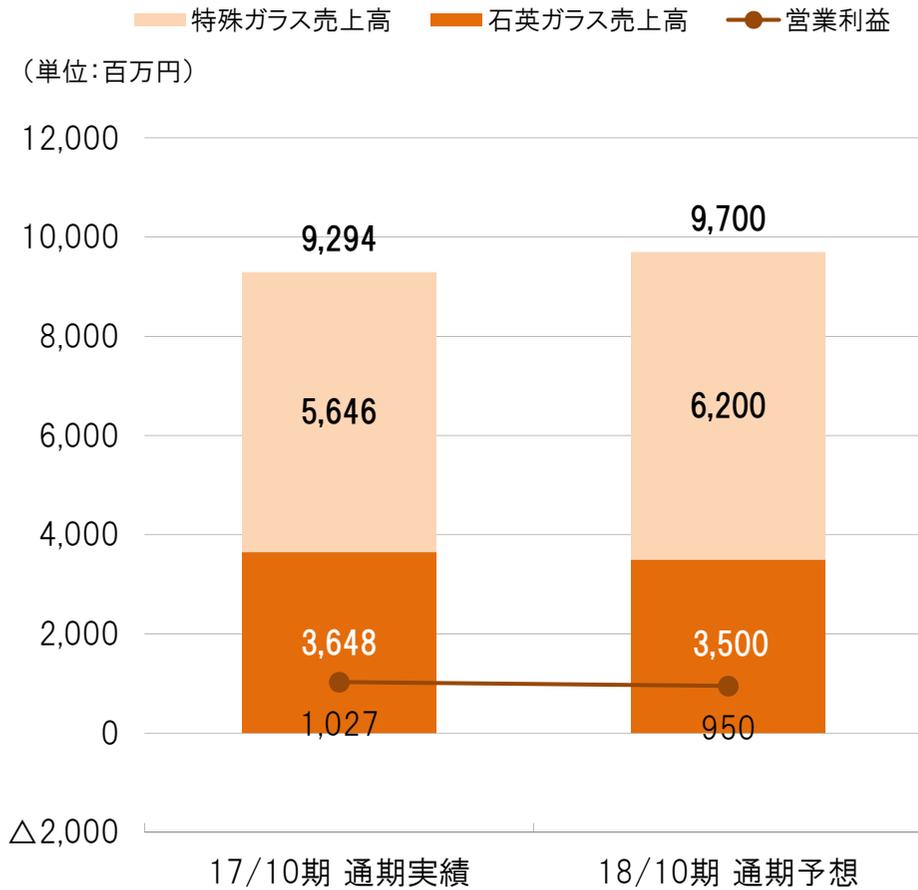
- 半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器の需要は引き続き好調に推移
- 宇宙関連産業も拡大見込み

当社状況

- 半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器向け拡販に努める
- 「ナノセラム™」は、スマートフォンの本体カバーガラス向けの採用を目指すとともに、筐体向けに着色を施した製品の開発を進める
- 「LICGC™」は、全固体電池向けとして求められる特性の実現に向けた開発活動を推進するほか、液系リチウムイオン電池の特性向上につながる添加材として採用を目指す

通期対比

半期推移



見通し数値まとめ

売上高

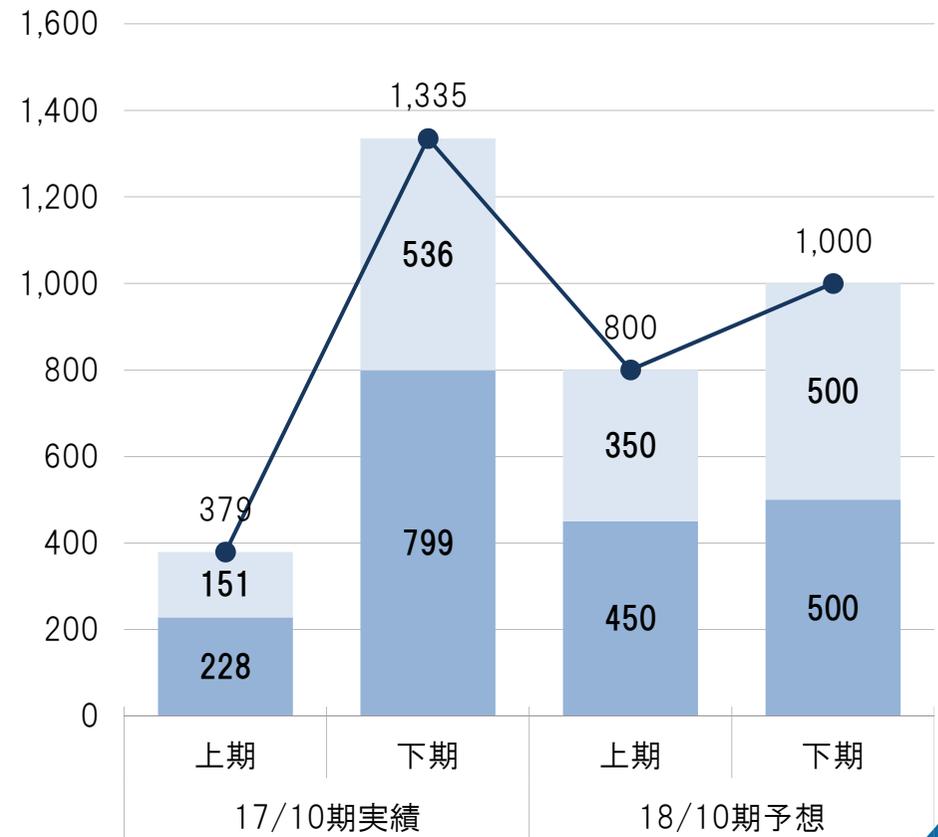
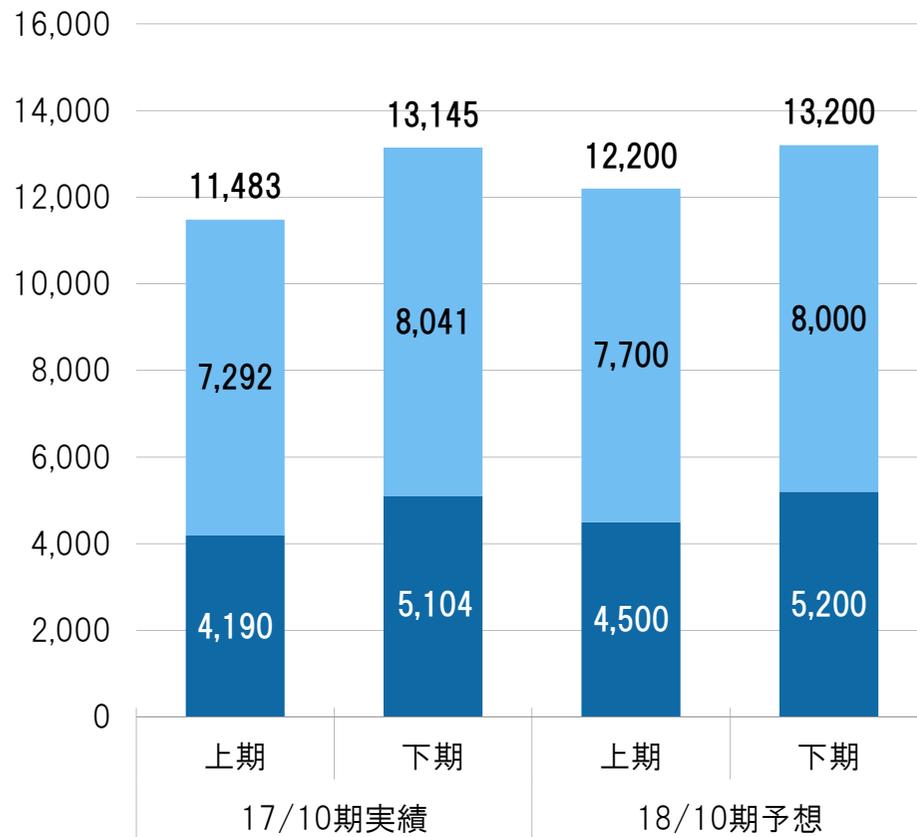
営業利益

■光事業 ■エレクトロニクス事業

■光事業 ■エレクトロニクス事業 ●合計

(単位:百万円)

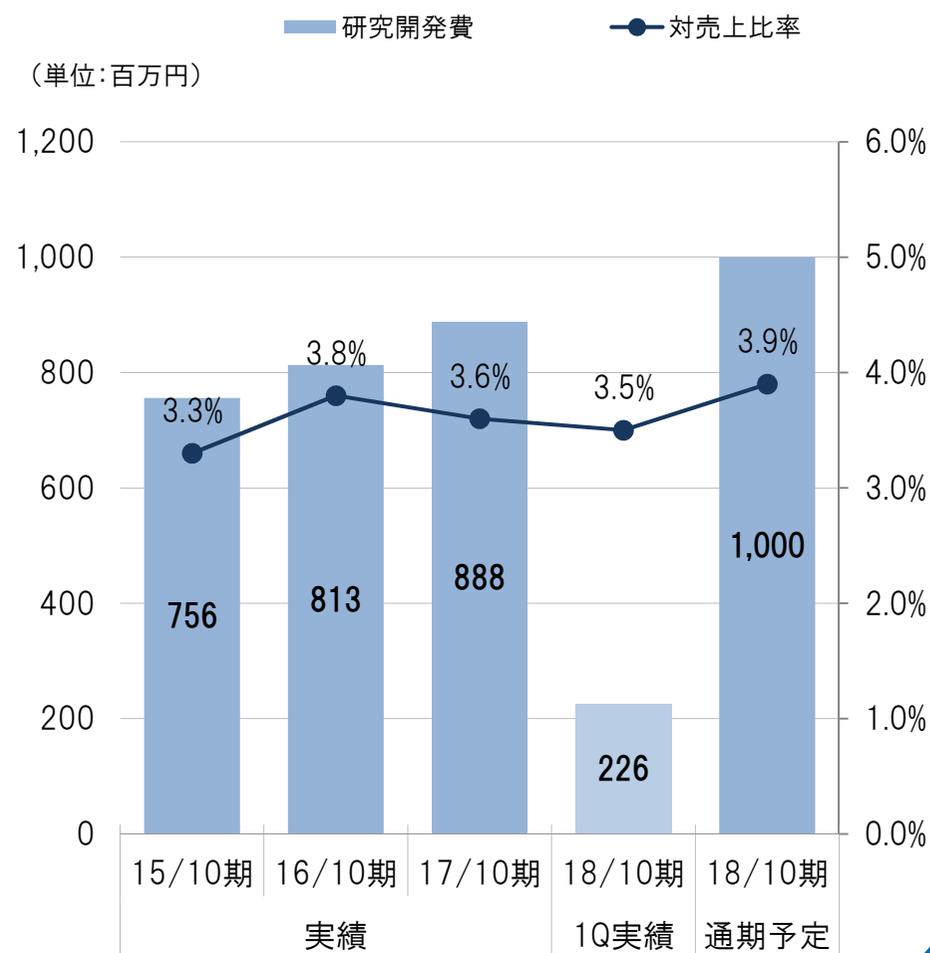
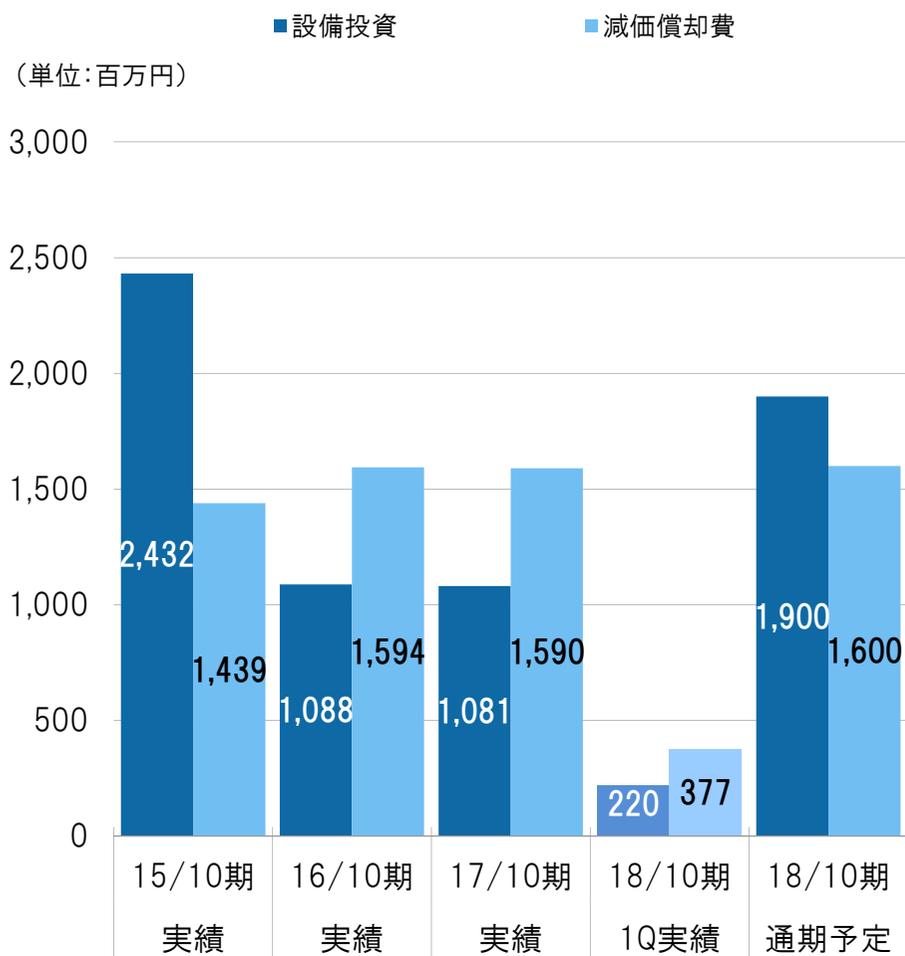
(単位:百万円)



設備投資、減価償却費、研究開発費

設備投資、減価償却費

研究開発費



Appendix(参考資料)

商 号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所 在 地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創 立：1935年(昭和10年)10月1日
 資 本 金：58億5千5百万円
 事 業 内 容：光学及びエレクトロニクス関連機器向けガラス素材の製造、販売
 従 業 員：409名(連結1,731名) (2017年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株 主 数：7,203名 (2017年10月31日時点)



代表取締役
社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	関戸 仁	生産、技術 管掌
取締役常務執行役員	中島 隆	財務、管理 管掌 兼 管理センター長
取締役常務執行役員	青木 哲也	営業、マーケティング、知的財産 管掌
取締役(社外)	大熊 右泰	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	小泉 達也	
取締役(社外)	内田 省寿	
常勤監査役	久保田 桂詞	
監査役(社外)	三上 誠一	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	杉田 光義	

大株主

(2017年10月31日時点)

	株主名	持株数	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,638	6.7%
5	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	943	3.9%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	150	0.6%
10	オハラ従業員持株会	140	0.6%

※持株比率は、自己株式1,124千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

グループ会社一覧

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



(株)オハラ 足柄光学(株)



(株)オハラ・クオーツ (株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



独国
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司

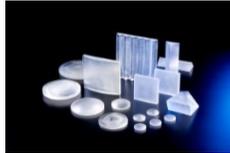


- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパー用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(独国)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始
4月: ISO14001認証取得
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立
6月: 大規模連続熔解開始
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファ이버用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
10月: 創立80周年
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 1月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)、交換レンズ用高級フィルター「WR CERAMIC PROTECTOR」に採用
8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用

光事業

製品カテゴリ

光学プレス品



光学ブロック品



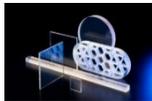
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

エレクトロニクス事業

製品カテゴリ

特殊ガラス

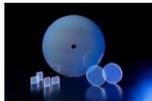
極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



線用高均質性光学ガラス



光通信機器向けガラス素材
WMSTM-15



耐衝撃高硬度クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス
LICGCTM

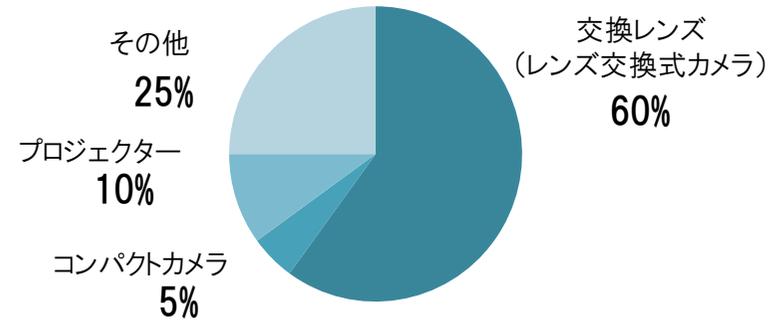


石英ガラス



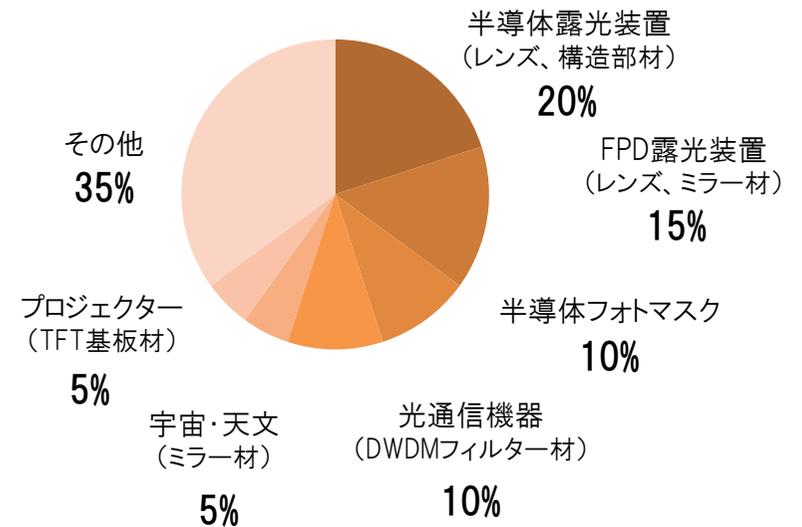
売上高の用途別比率

※2018年10月期1Q(当社想定)

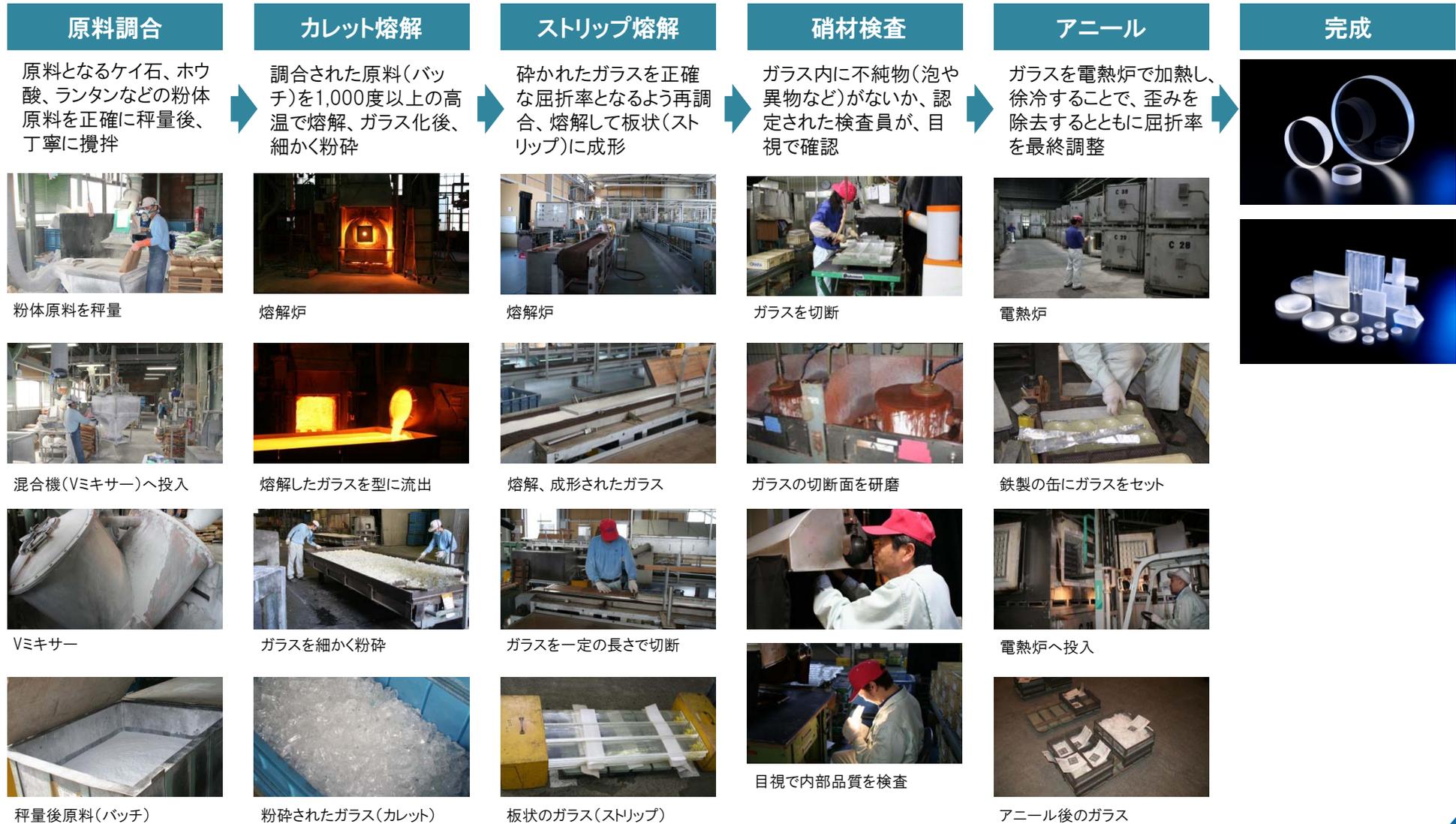


売上高の用途別比率

※2018年10月期1Q(当社想定)



光学ガラスの代表的な製造工程



中期経営計画の目標

	直近実績(17/10期)	目標(20/10期)
売上高	246億円	300億円以上
営業利益	17億円	24億円以上
自己資本利益率(ROE)	3.9%	5.0%以上
総資産有利子負債比率	10.1%	8.0%以下
エレクトロニクス事業 売上高比率	37.7%	40.0%以上

※前提条件

米ドル 110 円、ユーロ 120 円

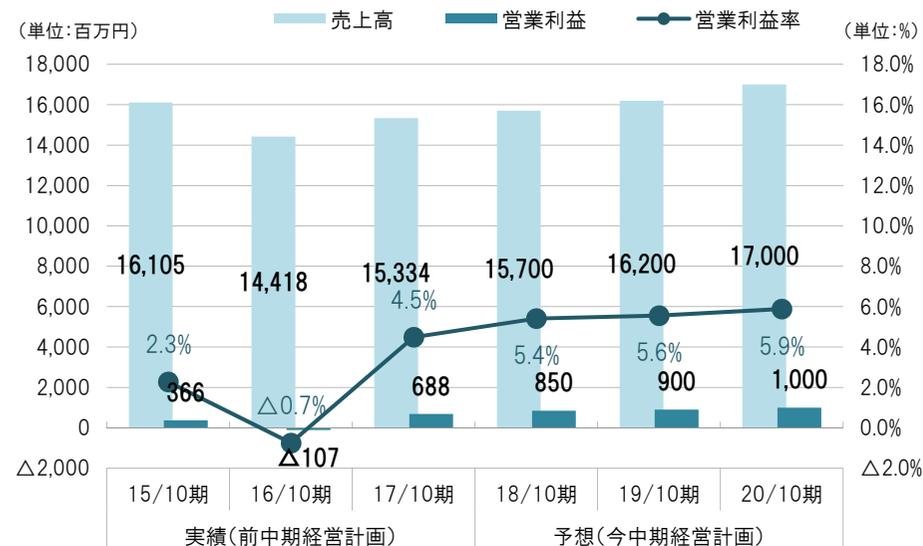
■光事業の関連市場

- ・デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- ・プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

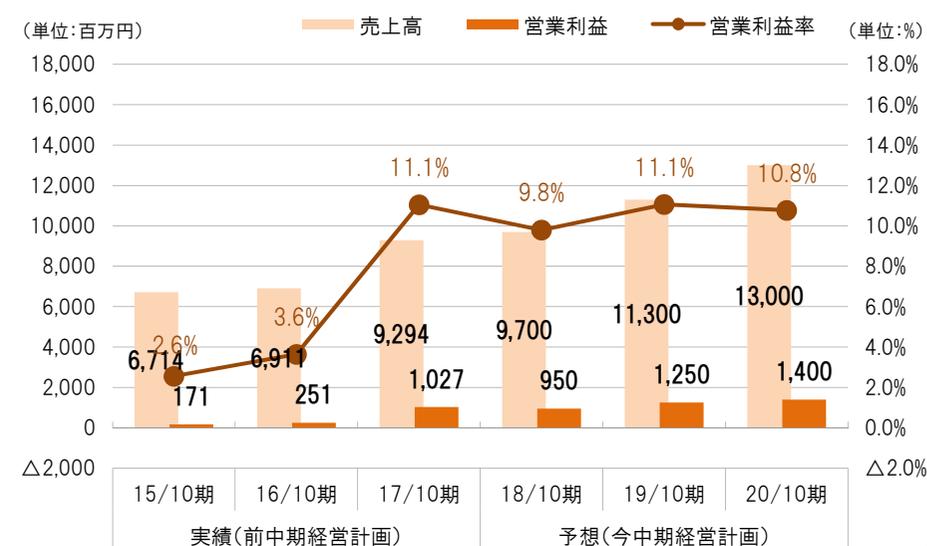
■エレクトロニクス事業の関連市場

- ・半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器の需要は引き続き好調に推移
- ・宇宙関連産業も拡大見込み

光事業



エレクトロニクス事業



経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、最高品質の先進素材を世界中に提供することで、お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。

中期経営計画のキーコンセプト

再成長軌道への回帰

マテリアル + ソリューションのオハラ

ガラスを**熔解**する会社からお客様の困り事を**熔**かして**解決**する会社へ

モバイル・モビリティ市場への貢献

観る

真のニーズの探索
変化を感じる感性

解決する

提案力の強化
素材の良さを形にして見せる
サプライチェーンの巻き込み

導く

成果を上げるリーダーシップ
事業化スピードUP



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。